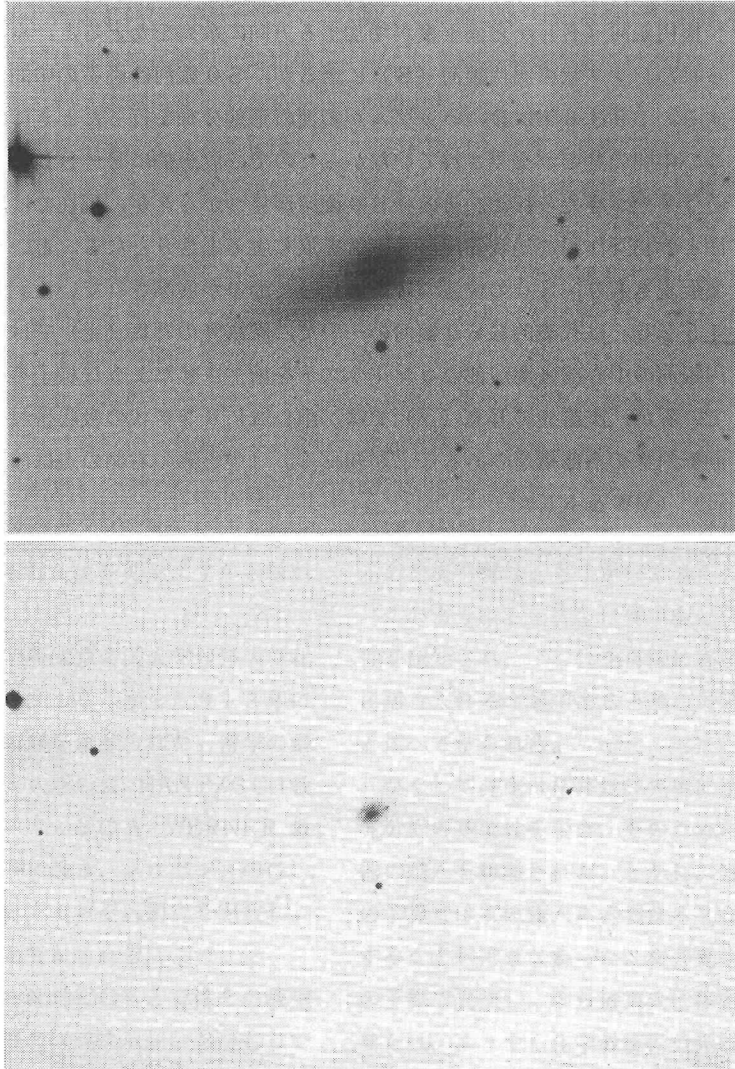


# 廣報

東京大学理学部

S0銀河 NGC 4526



## 目次

柴田雄次先生の分光器……………木村健二郎……………	2
<学部消息>……………	3
アメリカ人の苗字……………松本幸夫……………	13
懇親会スナップ写真……………	14

## S 0 銀河 NGC 4526

楕円銀河 (E) から扁平度が増加する方向に系列をたどると、良く知られたレンズ状の渦状銀河 (S) に至るが、S 0 銀河は両者の中間に位する。1936年にE. ハッブルが銀河の形態分類を行ったときには、この中間のものが発見されていなかったため、仮想的にE-S0-Sという系列が与えられた。その後S 0 銀河が見つかったが、現在では、周囲との相互作用で渦状銀河からガスを取り去るとS 0となる、という作業仮説もあり、S 0の位置づけをめぐる論争が展開されている。NGC 4526 は代表的なS 0 銀河の一つで、深露光の写真(上)では、楕円銀河の中心部と周辺部のコントラストを増加させたような様子を示しているが、浅露光の写真(下)では、中心域にリング状の吸収帯が見え、回転対称の内部構造のあることが知れる。(中心部の右側の点は前景の星) (MW & KK)

## 柴田雄次先生の分光器

木村 健二郎

本学名誉教授柴田雄次先生はその満98歳の誕生日にあたる本年1月28日に逝去された。天寿を完うし、安らかにご永眠になったこととはいえ、まことに哀悼の念にたえない。

2月10日のご葬儀には本学を代表して向坊総長が弔辞を読まれ、また門下生を代表して山崎一雄博士(1933年化学科卒業、名大名誉教授)が追悼の辞を捧げ、故先生にふさわしきご葬儀をもって先生をお送り申し上げた。

さて、藤原鎮男教授から理学部広報に柴田先生のご逸話とでもいうべきものを書くよう御依頼があった。よって思いつくままに先生ご愛用の分光器について記すこととした。この分光器については先生がご執筆になった“分析化学昔噺”(ぶんせき1975年8月号掲載)の中にも出ており、それと重複する点も多いが、私の知っていることも若干書き添えた。もし先生を偲ぶよすがとなれば幸いである。

柴田先生は1907年東京帝国大学理科大学化学科ご卒業ののち、1910年から1913年にわたり3年間の海外留学を命ぜられた。留学の最初の1年はライプチヒ大学のA. HANTZSCH教授、次の1年はチューリッヒのA. WERNER教授、最後の1年はパリに赴き、ソルボンヌのG. URBAIN教授のもとでそれぞれ研究を完成し、その成果を印刷公表しておられる。

先生は始めURBAIN教授のもとではその教室のお家芸である希土類の研究に取組むおつもりであった。しかし、URBAIN教授は“希土類分離の数千回にも及ぶ分別結晶などはとうてい短期滞在の外国留学生のなし得ることではない”として、HANTZSCHのところでおぼえた吸収スペクトルの手法と、WERNERのところ習った錯塩

合成法とを生かし、コバルト錯塩溶液の吸収スペクトルの研究をしてはどうかとすすめられた。希土類の分離は今でこそ比較的容易になり、純粋な製品も市販されているが、URBAINの言葉は当時としては当を得たものであり、先生もこれに従がわれた。

URBAINは先生に地下の一室を与え、ここに新着のヒルガー社の石英分光写真器を据えて先生の専用に任せた。先生は各種の構造のコバルト錯塩を合成しつつその溶液の吸収スペクトルを観測し、その結果はCOMPTE'S RENDUEに掲載された。

一方、先生はのちに著名な分光分析者となったBARDETというソルボンヌの若い講師と懇意になり、この人からアークスペクトルによる分光分析法の伝授を受けた。そして日本特産の鉱物苗木石の分光分析なども手がけておられる。

このようにして先生は留学中に分光分析の重要性を感知され、“これを母国に移植し、大学教育に組み入れるべきであると熱心に考えるに至った”と述べておられる。

かくして先生は桜井錠二先生に手紙を書いて分光分析の重要性を説き、そのために石英分光写真器の購入を懇願された。しかし、当時の化学教室の予算ではこの購入に必要な2,000円を捻出することができなかった。桜井先生は帝国学士院の予算で発注し、のちに東大に移管するよう配慮せられ、ようやく化学教室に分光器が来ることとなった。

ところが、どういう間違いかこの分光器は大きな箱詰のまま仙台の東北大学に着いてしまい、先生はこの受取のためわざわざ仙台に出張されることになった。この出張旅費も化学教室では全部出

することができず、「打ち切り旅費」で出かけられたが、本多光太郎先生が「ちょうどよいから、こちらの分光器の調整をしてもらいたい」といわれ、その謝金として20円を下さったのでどうやらまかなえたというお話であった。

さて、このような経緯を経て化学教室におさまったヒルガー社製石英分光写真器（E2型）はそのうち長く先生のご愛用するところとなり、先生の初期のご研究「金属錯塩の分光化学的研究」、  
「植物色素の吸収スペクトルの研究」を始めとして門下の研究者はもとより、他大学あるいは他の専門たとえば医科の多数の研究者にも活用され、それぞれめざましき成果をあげたのであった。

この分光器の使用法は私ども古き門下生は先生から文字通り手をとって懇切に教えていただいた。実に有難いことであった。

興味のあるのは長岡半太郎先生がご自身試料を持って柴田先生のところに來られ、分光分析の依頼をされたことである。長岡先生といえば申すま

でもなく分光学の権威であるが、分光化学分析となるとまた別の話になるのかなと思った。この時長岡先生は柴田先生のご案内で使用する分光器をご覧になり、何がおかしいのか独特の高笑いをしておられたのを覚えている。私はこの光景の唯一人の目撃者である。

さて、この分光器は柴田先生のご定年ののちも長く役に立っていたが、このごろのように大変使いやすい分光器がいろいろ市販されるご時勢になると、引退すべき時が來たようである。私は先日もはや実験室ではなく、不破教授の室に安らかに横たわっているこの分光器の姿を見た。化学教室の皆さんがこの功勞多くそして私共にとっては柴田先生の思い出と重なってたまらなくなつかしい分光器を大切に保存して下さいようお願いしておく。

（本学名誉教授）

（付）理学部広報表紙の題字は、故柴田雄次先生の筆によるものです。（編集）

## <学部消息>

### 教授会メモ

5月21日（水）定例教授会

理学部4号館 1320号室

1. 前回議事録承認
2. 人事異動等報告
3. 寄附の受入れについて
4. 人事委員会報告
5. 会計委員会報告
6. その他

6月18日（水）定例教授会

理学部4号館 1320号室

1. 前回議事録承認
2. 人事異動等報告
3. 寄附の受入れについて
4. 人事委員会報告
5. 教務委員会報告
6. その他

（次回予定：7月16日（水）

午後1時30分より）

教室主任の交替（昭和55年6月）

天文学教室（新）海野教授 電・4255

（旧）高倉教授

## 昭和55年度 科学研究費補助金配分内定一覧

(昭和55年5月20日現在)

### がん特別研究(1)

研究題目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
器官培養その他による発生分化とがん化の基礎生物学的研究	水野 丈夫 教授	12,000
小型魚類を用いた発癌の基礎的研究	江上 信雄 教授	9,000

### がん特別研究(2)

研究題目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
がん細胞のチューブリンの動態に関する研究	酒井 彦一 教授	4,600

### 自然災害特別研究(1)

研究題目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
断層運動と活断層地形の形成	木村 敏雄 教授	3,300

### 環境科学特別研究(1)

研究題目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
環境汚染影響の高感受性動植物検出系の開発	江上 信雄 教授	10,000
霞ヶ浦および周辺域の生態系動態におよぼす人間活動の影響	佐伯 敏郎 教授	2,000
環境の動態把握に関する基礎班	下 破 敬一郎 教授	11,200
熱排水の沿岸域での滞留と人為的水塊形成	永 田 豊 助教授	3,800

### 核融合特別研究(2)

研究題目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
トリチウム生物効果実験装置—とくにトリチウム除去処理装置の開発研究	代 谷 次 夫 助教授	15,100

### 特 定 研 究(1)

研究題目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
特殊条件下における地球深部物質の構造	竹 内 慶 夫 教授	7,000
熱水条件下における鉱物合成と相平衡の研究	飯 山 敏 道 教授	12,200
窒素有機資源開発のための反応解析	大 木 道 則 教授	17,000
光による生体制御の機構解析	古 谷 雅 樹 教授	17,600
有機分子の膜輸送	安 楽 泰 宏 教授	16,300
クラスターの動的過程の研究	朽 津 耕 三 教授	7,500
迅速回折強度記録装置及び試料周辺機器の開発と検討	竹 内 慶 夫 教授	15,000

研 究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
トレース・キャラクターゼーションの生体科学への応用	田 隅 三 生 教授	17,200
行動の遺伝・発生	堀 田 凱 樹 助教授	18,400
ユラーゲンの新架橋成分ピリジノリンの化学的及び生化学的研究	秋 葉 欣 哉 助教授	1,600
微惑星の形成過程に関する実験的研究	小 嶋 稔 教授	20,900
惑星電磁環境の現状と比較	小 口 高 教授	24,000
組換えDNA実験技術に関する研究	飯 野 徹 雄 教授	57,200
浅海堆積層による縄文・弥生時代の環境変遷の総合的研究	鎮 西 清 高 助教授	4,000
レーザー分光による励起状態の研究のとりまとめ。	霜 田 光 一 教授	9,000
細胞質因子の基礎的研究	飯 野 徹 雄 教授	6,000
地震予知のための総合観測井設置と前兆現象の捕捉	浅 田 敏 名誉教授	2,500

## 特 定 研 究 ( 2 )

研 究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
地殻下部・上部マントルに相当する系の相平衡およびカイネティックスに関する研究	久 城 育 夫 教授	12,600
分光学的に制御された分子線による衝突断面積の測定	清 水 忠 雄 助教授	5,000
集積超伝導微粒子系の特性とその応用	佐々木 亘 教授	3,600
硫酸化糖タンパク質の細胞生物学的研究	嶋 田 拓 講師	1,100
粘菌ミオシンが低イオン強度溶媒中で形成するオリゴマーの構造	須 藤 和 夫 助手	1,100
金属化合物への配位を利用する生合成型有機合成反応の開拓	奈良坂 紘 一 助教授	1,100
太陽類似恒星の進化と活動性に関する研究	小 平 桂 一 助教授	1,700
地球大気中の微量成分の分光測定	小 川 利 紘 助教授	1,500
非晶質カルコゲナイドの蛍光と構造	二 宮 敏 行 助教授	3,800

## 総 合 研 究 ( A )

研 究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
適応によって生じた神経内分泌現象の多様性と統一性 — その系統発生学的研究	小 林 英 司 名誉教授	500
大学院問題に関する調査研究	植 村 泰 忠 教授	2,000
代数学及びその関連分野の総合的研究	岩 堀 長 慶 教授	5,000
位相幾何学と関連諸分野の総合的研究	服 部 晶 夫 教授	4,000
東南アジアにおけるヒマラヤ要素高等植物の分類と分布	大 橋 広 好 助教授	3,000
チューブリンの分子機能に関する研究	酒 井 彦 一 教授	300
現生・化石エントモストラカ(オストラコーダとシリペディア)の生物地理学的研究	花 井 哲 郎 教授	1,300
現代日本人頭蓋骨の地理的変異に関する総合調査	埴 原 和 郎 教授	500
微分方程式の総合的研究	木 村 俊 房 教授	5,500
函数解析学の総合的研究	伊 藤 清 三 教授	3,000
恒星外層物理の総合的研究	小 平 桂 一 助教授	3,750

研究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
地上、海上、航空磁気測定と人工衛星観測の資料対比による地球内外の電磁気学的研究	福 島 直 教授	7,100
植物細胞におけるイオン輸送と生理機能との共役と制御	田 沢 仁 教授	8,800
真核生物の鞭毛運動に関する総合的研究	高 橋 景 一 教授	8,000
鉱物の微細構造・組織とその特殊条件下における研究	竹 内 慶 夫 教授	5,500
ソフトウェア・ツール構成法の研究	国 井 利 泰 教授	4,500
高校から大学にいたる数学教育の諸問題の基礎的研究	藤 田 宏 教授	6,800

## 総 合 研 究 (B)

研究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
環境とその管理に関する日仏の比較地理学的研究	小 堀 巖 助教授	2,000
高エネルギー物理学の次期計画	藤 井 忠 男 教授	2,500

## 一 般 研 究 (A)

研究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
気球望遠鏡による恒星大気構造の研究	小 平 桂 一 助教授	3,000
ヘテロ原子を含む9-置換トリプチセンの回転異性体の単離と内部回転障壁	大 木 道 則 教授	2,000
テルペンの転位反応の研究	高 橋 武 美 教授	500
陽子-反陽子反応によるバリオンウムの研究	釜 江 常 好 助教授	1,500
固体ヘリウムの格子欠陥の研究	鈴 木 秀 次 教授	6,500
非円形断面トカマクの各種断面形状を比較検討する研究	遠 山 潤 志 講師	5,500
高選択的不斉合成反応の開拓とそれを利用する光学活性天然有機化合物の合成	向 山 光 昭 教授	2,000
微小管蛋白の分子集合及び再構成微小管と細胞膜の相互作用に関する生化学的研究	酒 井 彦 一 教授	2,000
放射線高感受性細胞の形態学的・生化学的特性の研究	江 上 信 雄 教授	2,000
隕石中の微小鉱物の結晶化学的研究	武 田 弘 助教授	2,200
呼吸鎖電子伝達系チトクロム b 成分の蛋白化学的研究と電子伝達機能の研究	安 楽 泰 宏 教授	15,000
細いフィラメント・ミオシン複合体の三次元像再構成による筋4 $\ell$ 縮制御の分子機構の研究	若 林 健 之 講師	28,000

## 一 般 研 究 (B)

研究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
固体微粒子の形成と光学特性	上 条 文 夫 助教授	2,300
かにパルサーからの重力波の検出	平 川 浩 正 教授	1,100
国際協力深海掘削計画・玄武岩の40Ar-39Ar年代およびSr, Nd同位体比測定	小 嶋 稔 教授	2,900
清浄金属表面上の一酸化炭素の水素化反応の研究	田 丸 謙 二 教授	900

研 究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
スピントラップ法による高層大気圏のラジカルの定性および定量	藤原 鎮 男 教授	2,400
光応答性錯体の開発	斉藤 太 郎 助教授	800
ポリペプチド鎖延長過程におけるタンパク-核酸相互作用の分子構造レベルでの研究	宮沢 辰 雄 教授	900
細菌の細胞分裂に關与する膜蛋白質の分子遺伝学的研究	鈴木 秀 穂 助教授	1,000
微分方程式の大域的研究	木村 俊 房 教授	3,000
超伝導微粒子中の原子核の断熱消磁による核秩序	小林 俊 一 助教授	7,000
ミュオン零磁場緩和法によるスピングラスのダイナミックスの研究	山崎 敏 光 教授	6,900
植物細胞におけるウイルスRNA及びウイロイドの発現と制御に關する分子生物学的研究	岡田 吉 美 教授	6,900
原形質中の遊離カルシウムイオン濃度と原形質運動との相関	田沢 仁 教授	5,600
魚類嗅覚系の構造と機能	上田 一 夫 教授	3,700

## 一 般 研 究 (C)

研 究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
恒星の非動径振動	尾崎 洋 二 助教授	900
重イオン核反応における共鳴現象	松瀬 丈 造 助手	1,000
二酸化窒素のグローバル分布の探査	小川 利 紘 助教授	900
グルタミンとPRPPと同時に利用する遺伝子のクローニングとその構造解析	溝 渕 潔 助教授	800
細菌の光合成の電子伝達	森田 茂 広 助教授	800
準輝石相と輝石相の構造変態と結晶内での原子の運動論	山中 高 光 助手	450
ラムダ・フェージ構造タンパク質の構造と機能の分子内解析 (遺伝学・タンパク質化学・電子顕微鏡法の組み合わせによる 遺伝子構造タンパク質構造, 集合体内でのタンパク質の機能の 関連の研究)	桂 勲 助手	500
代数群・Lie群および関連領域(代数多様体論など)の諸問題	岩堀 長 慶 教授	2,500
太陽対流層における磁場の進化	海野 和 三 郎 教授	2,300
太陽電波U型バーストの観測及び数値シミュレーション	高倉 達 雄 教授	1,600
反射地震探鉱法における理論地震記象	斉藤 正 徳 助教授	2,400
地震断層モデルによる地表加速度の研究	佐藤 良 輔 助教授	2,000
I M S 国際共同研究事業の地上観測網で得た観測資料の解析に 基く磁気圏の電磁気的研究	飯島 健 助手	1,000
金属的有機錯体における電荷移動のX線光電子分光法による研究	池木 勲 助教授	1,700
赤外発光分光法による固体触媒反応の研究	相馬 悠 子 助手	2,200
複素芳香族カチオンからのホスホナートの合成とそれらのWittig反応	秋葉 欣 哉 助教授	1,700
E S R による定量分析(リポリームスピニムノアッセイへの応用)	渡辺 徳 子 助手	2,200
ネズミチフス菌のアルカリ性フォスファターゼの合成とプロセ シングの遺伝的調節機構	石津 純 一 助手	2,000
一次遷移初期における植生-土壌窒素循環系の発達	広瀬 忠 樹 助手	2,500



研 究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
高等植物における酵素合成の調節機構	坂野 勝 啓 助手	2,300
魚類孵化酸素の細胞内プロセッシング	山 上 健次郎 助教授	2,000
ホルモンによるマウス生殖線附属器官の不可逆的増殖について	守 隆 夫 助手	1,700
地殻でのマグマ分化とそれに伴う元素の移動・濃集に関する地質学・地球化学的研究	河 村 雄 行 助手	2,300
等電点分画法によるヒト血清蛋白の遺伝的多型の検出	尾 本 恵 市 教授	900
タバコモザイクウイルスRNAの形態形成反応開始部位の構造と機能	大 野 哮 司 助手	2,000
促進拡散に關与する輸送蛋白の研究	笠 原 道 弘 講師	2,000
山地・海岸の後氷期における自然の変動の定量的研究	阪 口 豊 助教授	2,600
生体高分子のマイクロ波帯域における時間領域での誘電スペクトル測定 (TDR)	和 田 昭 允 教授	2,900

## 一 般 研 究 (D)

研 究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
非保存系に適用できる一般摂動論の改良	堀 源一郎 教授	470
汎天候状態の形成機構に関する基礎的研究	松 野 太 郎 助教授	480
有機リン系縮合剤を用いるペプチド合成法の開発	渡 辺 裕 助手	400
橋かけ含硫複素環化合物の合成とその芳香族性	岡 崎 廉 治 助手	470
界面活性化金属ポルフィリン及び界面活性化ビスポルフィリンの合成とその光化学的研究	山 村 剛 士 助手	460
子ノウ菌の有性生殖器官分化における細胞器官の役割についての研究	井 上 康 則 助手	470
ニジマス胚型及び成体型赤血球に発現される遺伝形質の相違	井 内 一 郎 助手	470
ウサギ梨状皮質ニューロンにおける "Slow" IPSPの発生機構	佐 藤 真 彦 助手	460
東シナ海周辺海域のウニ相の研究	重 井 陸 夫 講師	470
方沸石型ゼオライトの高温単結晶X線解析	芳 賀 信 彦 助手	480
日本人の歯における咬耗度の時代別分析	埴 原 和 郎 教授	430
希ガス同位体に基づくマントル・プルームの検証	兼 岡 一 郎 助手	480
密度成層・海底地形をもつ海洋に存在する波動・海嶺・大陸斜面の効果について	杉ノ原 伸 夫 助手	480
モンスーンじょう乱の構造と生成機構	新 田 効 助手	460
二重鎖RNAフェージφ6の遺伝子発現とその制御に関する研究	伊 庭 英 夫 助手	470

## 奨 励 研 究 (A)

研 究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
高次元代数多様体の分類	川 又 雄二郎 助手	950
K-群による高次元類体論の研究	加 藤 和 也 助手	950
多様体上の力学系の研究	矢 野 公 一 助手	950
代数多様体の規制空間と保型函数	堀 川 穎 二 講師	950

研 究 題 目	研究代表者氏名	昭和55年度 配分予定額 (千円)
Hadamard 変分と固有植問題	小 澤 真 助手	950
微分方程式の境界値問題	片 岡 清 臣 助手	950
特異積分と関数空間の理論の実関数論的研究	宮 地 晶 彦 助手	950
フーリエ解析法による銀河構造の研究	家 正 則 助手	920
現在のプレートテクトニクス以前のテクトニクスに関する研究	松 井 孝 典 助手	700
磁気圏に於ける磁気流体波不安定と輸送効果	三 浦 彰 助手	700
X線光電子分光法による励起一重項酸素分子と有機固体の反応の研究	山 田 正 理 助手	800
有機結晶における光電導の磁場効果の研究	栗 師 久 弥 助手	800
紫外レーザー励起電子ラマン散乱による遷移金属錯体の電子状態の研究	浜 口 宏 夫 助手	800
光学活性ラクトン, ラクタム類の合成	武 田 猛 助手	800
ピクラサン型テルペノイド化合物の合成研究	広 田 洋 助手	800
低温における散乱電子メスバウアースペクトル測定用気体増幅比例計数管の開発と応用	佐 藤 春 雄 助手	800
化学発光法によるヒ素, セレン, アンチモンの高感度定量	藤 原 祺 多 夫 助手	800
B F 2 3 フェージのDNA複製に伴うDNA形態変化機構の解析	岡 田 清 孝 助手	780
一次遷移の先駆植物の役割りに関する物質生産及び固体群動態モデルを用いた研究	丸 田 恵 美 子 助手	780
細胞内灌流法を用いての起電性イオンポンプおよび光による活性化の研究	新 免 輝 男 助手	780
鞭毛モデルにおける運動開始過程の解析	宇 川 千 佳 子 助手	780
多変量解析法による日本人の地理的変異の分析	河 内 真 紀 子 助手	340
可視光のトモグラフィによる非円形トカマクプラズマの研究	長 山 好 夫 助手	890
抽象データによるプログラムの仕様と合成の研究	中 原 早 生 助手	720
メダカ精子の紫外線照射による単為発生胚出現機構の研究	井 尻 憲 一 助手	960

## 試 験 研 究 ( 2 )

研 究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
可搬型デジタル-アナログハイブリット方式による超高層データ収録装置	国 分 征 助 教授	1,400
高精度大気オゾン分光計の試作	小 川 利 紘 助 教授	800
微光束照射装置を組み込んだノマルスキー微分干涉顕微鏡の開発と利用	和 田 正 三 助 手	300
フルオロメトリーによる膜蛋白の動態に及ぼす薬物の作用の解析	安 楽 泰 宏 教 授	2,500
分析用超遠心機の測定結果の直接処理の試み	野 田 春 彦 教 授	960
低温固体表面での分子反応と離脱	中 田 好 一 助 手	6,100
重力波の較正信号の発生装置	平 川 浩 正 教 授	4,200
有機ハロゲン化合物イオン化の速度過程に関する非破壊的研究法の確立	大 木 道 則 教 授	3,100

研究 題 目	研究代表者氏名・職	昭和55年度 配分予定額 (千円)
マイクロ波誘導大気圧ヘリウムプラズマ光源の開発	原 口 紘 丞 助 教授	6,800
野生植物、種子および胞子の長期保存ならびに国際的交換システムの確立	古 谷 雅 樹 教授	4,000
以 上		1 5 8 件

(メモ)

- ・本学名誉教授 島 内 武 彦 殿 (化学教室)  
5月19日(月)午前5時30分 心筋こうそくのためご自宅にて逝去
- ・第16回教職員・学生懇親会  
6月2日(月)午後3時~5時(5月26日(月)雨天により延期)  
本学部附属植物園  
参加者 約750名(うち、教官約50名・名誉教授3名)
- ・第53回国立9大学理学部長会議  
6月19日(木)~20日(金) 於大阪大学理学部

## 人 事 異 動

(助手)

所属	官職	氏 名	発令年月日	異動内容	備 考
物 理		中 田 弘 章	55. 5. 1	助手に採用	
生 化	助 手	高 橋 征 三	55. 6. 1	復 職	
化 学	助 手	宮 本 健	55. 6. 1	復 職	

(講師以上)

地 物	助 手	杉ノ原 伸 夫	55. 5. 16	助教授に昇任	
植物園	助教授	大 橋 広 好	55. 5. 16	東北大理教授に昇任	

(併任助教授)

素粒子		鈴 木 敏 郎	55. 5. 1	助教授に併任 56.3.31まで	高工研助教授
素粒子		岩 崎 洋 一	55. 5. 1	〃	筑波大助教授

(一般職員)

事 務	事務官	大日方 鉄 機	55. 5. 16	医学部教務掛 主任に昇任	
事 務	事務官	安 岡 邦 信	55. 5. 16	大学院掛 主任に昇任	医学部から
物 理	事務官	鈴 木 なおみ	55. 5. 31	辞 職	
事 務	事務長 補佐	福 井 保 男	55. 6. 1	配 置 換	分院から

所属	官職	氏名	発令年月日	異動内容	備考
事務	事務官	大塚 幸男	55. 6. 1	配置換	応微研から
物理	事務主任	土居 喜公	55. 6. 16	附属図書館管理 掛長に配置換	
物理	事務主任	片桐 茂夫	55. 5. 16	配置換	農学部附属水産実験所から
物理	技能員	新門 秀道	55. 6. 30	辞職	勸奨による
植物園	技官	田中 康義	55. 6. 30	辞職	勸奨による
化学	用務員	中島 孝三	55. 6. 30	辞職	勸奨による

## 外国人客員研究員

化学	アメリカ	A. J. YENCH <sup>イエンチャ</sup> A	ニューヨーク州立 アルバニー大学 準教授	5 5. 6. 1 }
				5 5. 7. 1 5
化学	中国	コウ ショウ ジュン 黄 紹 鈞	華南工学院付 教授	5 5. 1 0. 1 }
				5 6. 1. 3 1
化学	中国	ラ ニュ サイ 羅 雄 才	中国民主同盟 広東省委員会 主任委員	5 5. 1 0. 1 }
				5 5. 1 0. 3 1
化学	中国	ラ エン メイ 羅 衍 明	華南工学院 材料科学研究所 講師	5 5. 1 0. 1 }
				5 6. 1. 3 1
物理	日本	もり なが はる ひこ 森 永 晴 彦	ミュンヘン工科大学 教授	5 5. 7. 1 5 }
				5 5. 1 0. 3 1
物理	ユーゴスラビア	B. Pov <sup>ボフ</sup> B	ハイデルベルグ大学教授 マックスプランク研究所長	5 5. 6. 2 0 }
				5 5. 7. 2 0

## 永年勤続者表彰

東京大学

技官 田中 康義 (6月30日表彰)

用務員 中島 孝三 (6月30日表彰)

## 海外渡航者

所属官職	氏名	目的国	期間	目的
地殻助教授	脇田 宏	アメリカ合衆国	5. 7~5.24	第3回モーリス・ユーイングシンポジウム出席および地球化学に関する研究のため
情報教授	国井 利泰	アメリカ合衆国	5.18~5.28	ナショナルコンピュータコンファレンス出席および情報科学に関する研究連絡のため
地質教授	飯島 東	イタリア	5.29~6.10	第5回ゼオライト国際会議出席のため
物理助手	東島 清	アメリカ合衆国	5.30~8. 2	素粒子物理学の研究のため
物理助教授	鈴木 増雄	スペイン ベルギー	5.31~6.28	統計力学国際研究集会出席および統計力学に関する研究連絡のため
物理教授	山崎 敏光	アメリカ合衆国	5.26~6. 2	カリフォルニア大学ローレンスバークレイ研究所研究計画委員会出席のため
植物教授	飯野 徹雄	アメリカ合衆国	5.28~6. 8	米国組換えDNA諮問委員会出席および組換えDNA研究における日米科学協力研究計画に関する協議のため
物理教授	鈴木 秀次	アメリカ合衆国	6.21~6.29	物理的な系の転位模型化国際会議出席のため
動物教授	水野 丈夫	フランス	6.17~8.16	発生生物学に関する共同研究のため
物理助教授	猪木 慶治	イタリア 連合王国 アメリカ合衆国	6.14~8.30	第20回高エネルギー物理学国際会議出席および高エネルギー物理学に関する研究連絡のため
数学助手	加藤 和也	ドイツ連邦共和国	6.12~6.23	代数的K-理論に関する集会出席のため
素粒子助手	武田 広	ドイツ連邦共和国	6.1~5.6.3.31	電子・陽電子衝突実験の研究のため
化学助手	武田 猛	アメリカ合衆国	6.28~ <sup>5.6.</sup> <sub>6.30</sub>	有機合成化学に関する研究のため
物理教授	有馬 朗人	イタリア	6. 7~6.23	原子核の相互作用するボソナーフェルミ系についてのワークショップ出席および原子核物理学の研究打合せのため
物理教授	小柴 昌俊	スウェーデン ドイツ連邦共和国 アメリカ合衆国	6.14~8.13	LEP実験国際会議、第20回ロチェスター高エネルギー国際会議出席およびJADE研究打合せのため
数学教授	田村 一郎	香港	6.16~6.21	東南アジア数学会第5回隔年総会出席
物理教授	宮本 健郎	ベルギー ドイツ連邦共和国 連合王国 フランス	6.28~7.27	第8回プラズマ物理及び制御核融合研究に関する国際会議、ステラレーターに関する国際研究集会出席およびプラズマ物理学に関する調査のため
物理助教授	小林 孝嘉	アメリカ合衆国 ドイツ連邦共和国	6.15~7.13	ピコ秒現象国際会議及び国際量子エレクトロニクス会議出席並びにピコ秒現象研究の調査のため
天文助教授	小平 桂一	チリ アメリカ合衆国	6.27~7.18	国際協力による球状星団の基本分光観測のため

所属官職	氏名	目的国	期間	目的
生化教授	野田春彦	イスラエル	6.20~6.29	第6回国際生命の起源集会及び第3回生命の起源学会国際会議出席のため
物理助教授	釜江常好	スウェーデン	6.13~6.22	LEP実験国際会議出席のため
化学教授	佐々木行美	フランス, スウェーデン ドイツ連邦共和国	6.27~8.8	第21回国際錯塩化学討論会出席および無機溶液化学研究のため
物理助教授	遠山潤志	ベルギー, フランス ドイツ連邦共和国	6.28~7.26	第8回プラズマ物理と核融合研究国際会議出席および研究連絡のため

## アメリカ人の苗字

松本幸夫 (数学)

珍らしく部屋の片付けなどやっていたら、2年前にアメリカから持ち帰った電話帳が出て来た。パラパラめくっていると、なかなか面白い。東海岸のニュージャージーの州都トレントン及びその郊外をカバーする局番609用のものである。部屋の掃除の方はちょっと休憩にして、アメリカ人の苗字のパラエティーを探ってみることにした。

まずポピラーな姓であるが、なんといってもSmith氏が圧倒的に多い。この電話帳では、トレントン市とその郊外を一応別立てで書いてあるので、以下、主にトレントン市に限定して調べてみることにするが、トレントン市の電話加入者(個人)約8万人の内、約500人のSmith氏がいる。次いで300人~200人位の姓を並べてみると、Johnson氏, Brown氏, Jones氏, Williams氏, Miller氏, となる。160~120人位の姓は, Kelley氏, Daris氏, Young氏, Allen氏, Moore氏, Taylor氏, White氏, Anderson氏, Thomas氏, Thompson氏等である。

Brown氏やWhite氏のように色彩に関係する苗字があるが、他にはGreen氏(68人), Gray氏(48人), Black氏(45人)がいる。さすがにRed氏はいなかったがRedd氏は7人いた。Blueという変わった姓もひとりいた。

KingとかBishopとかいう苗字も意外に多い。

King氏は61人, Bishop氏23人, Knight氏20人, Prince氏12人, Queen氏が7人, 他にRookなどという人も2人いるので、なんだかチェスが出来そうだ。

Long氏(24人), Little氏(15人)のように形容詞を姓にする人もいる。Large氏は3人, Small氏は8人, その他にQuickというアワテ者みたいな人も6人いた。Smart氏という格好の良さそうな人もいる。

動物の名前もけっこうある。Fox氏などはポピュラーな方で、トレントン市内に19人, 郊外には38人もいる。Bird氏は市の内外あわせて24人, Peacock氏も3人いる。Wolf氏の方は市内に24人, 郊外に10人。また, Wolfe, Wolff, Woolf, Woolfe, Wulf, Wulffなど, ちょっと遠慮してつづりを変えた人達も市の内外に50名程いる。迎え撃つHunter氏は市内に19人, 郊外に22人である。

金属では, Gold氏11人, Silver氏7人, Copper氏5人など。こういう人達の先祖は細工師かなんかだろうか。郊外にManganという人がひとりいたが, まさか, あのマンガン鉱ではなかろう。

方位に関する苗字では, 市の内外でEast氏1人, South氏15人, West氏70人位, North

氏4人と、圧倒的に West 氏が多い。これは、どう  
いう理由によるのだろうか。

Love 氏というのが6人いた。対照的に Love-  
less 氏というのも5人いる。なんだかおかしい。

頭に X の字のつく姓を持つ人が3人いた。フル  
ネームを書かせてもらおうと、Alicia Xass 氏、  
Nicholas Xenes 氏、Demetrios Xethalis  
氏の3名である。祖先はギリシャかなんかの出だ  
ろうか。

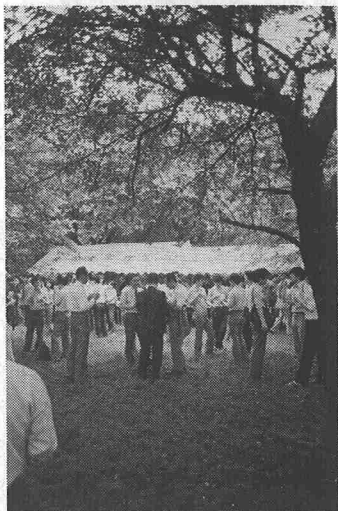
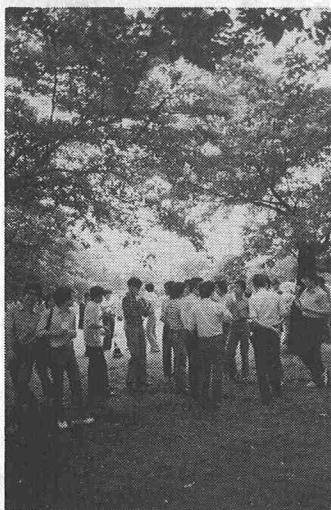
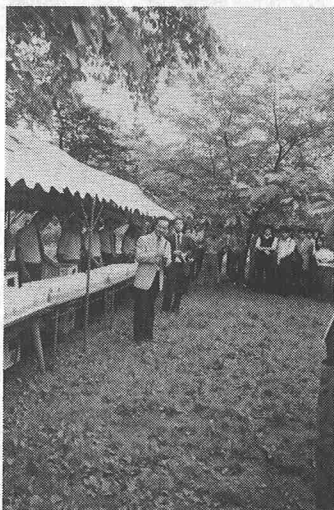
おいしそうな苗字に Apple 氏6人、Wine 氏  
1人、Donuts 氏1人（ただし、食べる方のド  
ーナツは Doughnut）等がいる。

Mister 氏という人がひとりだけいたが、こ  
ういう人に敬称をつけるときはどうするのだろうか。

僕自身出合った自動車保険の会社員に、From-  
back 氏という人がいたが、これも奇妙な苗字で  
ある。

### 第16回 理学部教職員・学生懇親会

#### スナップ写真



(青木広報掛長提供)

本年度の表紙写真は天文学教室で撮影した銀河です。

編集：

飯高	茂	(数学)	内線	4053
平川	浩正	(物理)		4141
小平	桂一	(天文)		4258
露木	孝彦	(化学)		4357
尾本	恵市	(人類)		4482